

実施している業務分担の効果のうち、検査の手順や入院の説明、慢性疾患患者への療養生活等の説明についてみると、「効果があった」と「どちらかといえば効果があった」の合計が医師責任者では 78.2%、医師では 49.8%、「どちらともいえない」がそれぞれ 14.8%、26.8%、「効果がなかった」と「どちらかといえば効果がなかった」の合計がそれぞれ 5.6%、22.9%となり、両者の間に大きな差異がみられた。

図表 176 実施している業務分担の効果  
 ～⑩検査の手順や入院の説明、慢性疾患患者への療養生活等の説明～

